

ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書委員会 ビブリア編集部
平成 6年 7月 20日

福島高専図書館報 第77号

巻頭言

『出会い』

米国人の身長のごとく背を伸ばした、メタセコイアの樹木は芽ぶき始まったと思っ
ているうちに瞬く間に新緑と変わってしまった。
光を浴びたその姿は、光線に透かしてみ
ると美しくかつ生きていくことの実感を
覚える。そんな情景を室から眺めながら、
あじさいの花咲く頃に出るだろうビブリア
の巻頭言をまとめている。

『出会い』と言う言葉があるが、「犬も
歩けば棒にあたる」の類で、日常的に際限
が無く起きていることです。ちよいとばかり
思い浮かべるだけでも、人との出会い、
自然との出会い、本との出会いなど....
様々な出会いの中で我々は生活している。
ここで言う出会いとは、その事によって、
いかに感動する事態を招くか、またどれほ
ど感銘を受けるか、と言うようなものに
限定して考えたい。人生の中で大きな変化を
する時の分岐点となっているような事柄を
指す。とりわけ、感性が豊かで、好奇心が
強く、論理思考のできる柔軟な若い時期に
遭遇するほど有効なのです。

一つの例を挙げると、これは数名のノー

ベル賞受賞者の言葉を集約したものです。
若かりし頃に、その研究に取り組むようにな
ったきっかけは、人との出会いで、その
時のちよつとした一言や、遭遇した環境か
ら始まっていることを大きく取り上げてい
た。しかしながら、一般凡人にとってはこ
ういうチャンスは本当に少なく、また本人
自身の資質が深く関係していると考える。
それでも確率的には皆無ではなく、努力に
よって限りなく近づく可能性をも秘めてい
るのです。そういった機会を得るために、
日頃から心がけることも大切です。

次に、著しく人を啓発するのが本（印
刷物）との出合です。活字によって、手軽
に様々な領域に立ち入り自己のペースで解
釈し吸収することが可能です。

私のお奨めする読書法の一つとして、専
門とは無関係と思われる領域から、構えず
気楽に始めることです。一冊の本から次々
連鎖的に興味が湧くようになればしめたも
のです。これから素晴らしい模索に向け、
始めては如何でしょう。

《機械工学科教官 亀井 秀也》

目次

巻頭言 亀井秀也	・・・1	図書館利用の手引き	・・・8
新入生に薦める入門書	・・・2	図書館だより	・・・9
私の推す一冊	・・・3	夏季臨時開館お知らせ	・・・10

新1年生に薦める 入門書

機械工学科教官 中山 淳

機械工学科の一年生諸君には、次の本を紹介したいと思います。

著者名：稲見辰夫

書名：「入門 ビジュアルテクノロジー
機械のしくみ」

発行所：日本実業出版社

この本は、機械の発明の歴史や機械が動く基本的なしくみなどをおもちゃからロボットに至るまでやさしく解説した本です。難しい数式などはいっさいなく、図をふんだんに使って機械をやさしく解説している本で、他学科の学生でも機械に興味がある学生にとっては役立つ本ではないかと思えます。

機械工学科に入学した学生の中には自動車に興味があるとか、好きだというような学生が多いのではないかと思うが、そのような学生には「オートメカニック」のような月刊誌で、「ガソリンエンジンとロータリーエンジンの違い」や「アクティブサスペンションとは？」というようなことを学ぶのもよいのではないかと思う。しかし、いきなりこのような本を見るのではなく、先に紹介した「機械のしくみ」を見てカムや歯車やリンクのことを理解してから見るようにすれば、色々な面で理解が深まるのではないかと思います。

まず低学年のうち、機械に興味を持てるような本や、興味を深めることのできる本を読み（見て）、その後自分が特に興味を持ったものの専門書などを手にしてみてください。

工業化学科教官 青木 寿博

高校生向けに発刊された「化学の話」シリーズ（倍風館）の中から次の2冊を紹介しま

す。内容はそれぞれの本から引用しました。

1) 「気体の話」 谷崎 義衛著

本書はまず、窒素、水素、酸素などの種々の気体がどのようにして発見されたか、現代化学の基礎となった気体反応の法則がいかに確立されたかを紹介し、続いて気体の一般に通じる性質と、それをミクロな立場からみる気体運動論について説明していく。その後、実在気体の様々な性質について考察を進め、気体の液化へと言及している。工夫をこらした多くの図と平明な説明で、大変わかりやすい「気体」の入門書となっている。

2) 「水の話」 伊勢村 寿三著

本書は水の特異な性質を解明しながら、ぬれや洗濯などの身近な話題、水の精製、浄水や海水から真水を得る方法など産業上の話から、自然界における水の循環、生体での水の役割まで、水全般にわたる広い話題を平明に紹介した入門書である。

以上のような本を読むことによつて、目に見える身近な自然現象を目に見えない原子や分子をもとに理解することができれば、化学がおもしろくなってくるのではないかと思います。

一般教科教官 吉村 忠晴

私の薦める本は、新保 哲編著「日本の文化思想史」（北樹出版）である。この本は、古代から現代に至る日本の文化思想を様々な視点・角度から掘り下げたものである。そしてこのなかで第3章「近世の文化思想」の執筆を担当されたのは、本校の笠井 哲教官である。私がこのような言い方をするのは大変失礼なことではあるが、先生は今まで誰もがその困難さから手を出すことに躊躇していた分野を、独自に開拓して学問の域まで高められた新進気鋭の研究者である。その先生の幅広い知識と深い教養に基づいて書き下ろされたのが、本書の一部となっているわけである。近世という時代は日本文化の最も成熟した

時代の一つといえ、先生はこの時代に生まれた日本人独自の精神文化の結晶について「桃山文化」、「元禄文化の社会と教育・学問」、「武芸の世界」、「茶の湯の歴史」、「生活の中の町人文化—芸能と娯楽—」の5つの節に分けて書かれている。そして、各節ごとにいくつかのテーマを取り上げて詳細かつ簡潔にまとめている。それらは系統だてて配置されており、全体としての流れを有しているため、非常に理解しやすいものになっている。

本校の学生のように理工系の人間にとって、このような精神文化に触れる機会は極めて少ないと考えられる。それゆえ本書は、一年生だけでなく、是非みんなに一読してもらいたい一冊である。

コミュニケーション情報学科教官 静 哲人

「きのうちキンを食べた」を英語にすると I ate chicken yesterday. なのか、I ate a chicken yesterday. なのかは、日本人である我々はいつも迷うところであるが、このような、英語の根本的な感覚について分かり易く書かれた本が、マーク・ピーターセン著『日本人の英語』（岩波新書）である。著者によれば、上のチキンの例の a のついた形から連想されるのは、鶏を1匹まるごと食べてしまって血のついた口を拭っている男の姿だという...

また文化と言語の関係を論じた古典的名著に鈴木孝夫著『ことばと文化』（岩波新書）がある。相手に対する呼掛けとして、「お姉さん!」はあるが「妹!」はない、「先生!」は言うが「生徒!」とは言わない、とか、言葉を持たないネコは果して机と椅子を区別することが出来るか(?!)などの興味深い問題を扱っている。

最後に、「英語が話せる=国際的=かつこい、すごい」と信じている人にも是非読んで貰って、頭をぶん殴られたような気分を味わって欲しいのが、富岡多恵子著『「英会話」

私情』（集英社文庫）である。英語がこれほど世界に広まったのは英語が優れた言語だからでもなんでもなく、血塗られた歴史的事実の結果である。それを忘れて日本人が日本で外人と話すときに当然のごとく英語を使ってしまうという植民地的屈辱的事態に疑問を感じない愚者になつてはなるまい。

私の推す一冊

《「字のないはがき」の紹介》

機械工学科1年 齊藤 雄一

あなたは、向田邦子という人を知っていますか。向田邦子さんとは、1929年から1981年まで活躍した東京都出身の放送作家兼小説家であり、これから紹介するのは、中学時代の教科書で出会って、そこから僕が心を引かれた作品です。

向田邦子さんが女子校に入学して親元を離れた時、父は家でいっしょに生活していたついでさつきまで呼び捨てにしていた娘の名前を手紙の時だけは殿をつけたり、文中自分の娘に、貴女と呼んだりしていた。いつもふんどし一つで家じゅうを歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こしていた父の姿はどこにもなかった。しかし最もなつかしい手紙と言われれば、その父があて名を書き、妹が「文面」を書いたあの葉書だと考えついた。あの葉書というのは当時妹が疎開することになり、妹はまだ字が書けないので、父がおびただしい葉書にきちょう面な字で書いた葉書である。

妹は字が書けないので1~2回までは赤鉛筆の大マルだったが、3回目以降は黒鉛筆の情けない〇だった。ついにそれは×に変わり、まもなく×の葉書もこなくなり、三月目に母が迎えに行った時妹はしらみだらけの頭で三畳の布団部屋に寝かされていた。妹が帰って

来る日家族たちは妹を喜ばせようとして、採ってしまうと父が怒る小さなうらなりのかぼちやを二十数個とり、飾っておいた。父は妹が帰ってきたと聞いた瞬間、裸足で表へとび出し抱きついて声をあげて泣いたそうだ。

この作品の他にもまだまだいい作品があるので探してみてもいいでしょうか。

《「清兵衛と瓢箪」を読んで》

電気工学科1年 渡辺 剛史

僕がこの話を聞いたのは、この感想文を書くために友達に相談したら、その友達がこの話のあらすじを教えてくださいました。

この話にでてくる主人公の清兵衛は、わずか十二歳でもものすごい瓢箪好きで、栓も自分で作り、毎日父の飲み明かした酒で磨いたり、全部一人でやっていたそうです。ある日清兵衛は瓢箪を学校に持って行き、授業中熱心に磨いていると、担任に見つかり、その担任は清兵衛の家へいき、母に全て話してしまった。この担任は自分が瓢箪に興味がないから家にまで言いにくたりするのです。

そのことで、母は清兵衛のいる前で、父に泣きながら全て話すと、父は清兵衛を、なぐりたおし、その後、家中の瓢箪を全て割ってしまったのです。この父も大の瓢箪嫌いで、今まで清兵衛がしてきた事が、気に入らなかったそうです。

どうして大人達は、そう自分勝手なんでしょう。授業中にそのようなことをするのも悪いが、子ども自身が興味を持っていることを大人が奪ってしまう権利はないと思います。全部の大人がそのような人ではないだろうけども、その一部の大人達には、もっと子ども達の気持ちをよく考えてほしいです。

僕はもう十六歳になりますが、何一つ興味を持つものがありません。これからは、清兵衛を見習って、打ち込める何かを見つけたいです。

《「ガダラの豚」を読んで》

中島 らも著 (実業之日本社刊)
コミュニケーション情報学科 菅 香奈子

この本のタイトルは、マタイ福音書の中のエピソードからとったものであるとのこと。しかし、一体どんな豚の話なんだろうと思いつきながら頁を開く。と、そこに出て来るのは豚ではなく、アフリカ呪術の研究をしている一人の民族学者、大生部という男。

彼は研究ですばらしい業績をあげてはいるのだが、その論旨があまりにも並外れたために、大学から研究費をけずられてしまうありさま。そこで彼は本を出し、TVに出、アフリカに研究チームを送るための費用を稼ごうとしていた。

そんな中、大生部を取り巻く人々、ノイローゼ気味の妻と一人息子、スプーン曲げ青年、超能力あばき手品師、怪しげな新興宗教の教祖、大生部を利用し特番を作ろうとするプロデューサー等が入り乱れ、ついには、一家そろってアフリカへ行くことになってしまう。そして物語は本場アフリカ呪術師との壮絶な戦いへと展開する。ストーリーもよいが、中島らも氏の言葉の呪術も楽しめる。読んでいくうちに魅了され、引き込まれてしまう。本自体に呪術がかけられているような、そんな感覚が味わえるのだ。とにかく、ただ者ではない一冊なのである。

《宇宙人に興味がありますか?》

工業化学科2年 高木 厚志

あなたは今までに、宇宙人と自称する人間に会ったことがありますか? 多分ないと言う人がほとんどでしょう。けれども、中には自称ではなく本物の宇宙人に会いたいと思ってる人がいるはず。そんな人たちに『人間そっくり』という本があります。これを読めば宇宙人の行動や性格などが少しはわかるはず。

ところで僕がこの本を買ったきっかけは、何年か前TVで、「UFO」について多く放送された時があったのはご存じでしょう。その時以来「UFO」に興味をもってこの本を買ったので、めったに読書などしない僕でも病み付きになったのです。もちろんそのおかげで短時間で読むことができたのです。ではあらすじを少しだけ紹介しましょう。

<こんにちは火星人>というラジオ番組の脚本家のところに火星人と自称する男がやって来る。果たしてたんなる気違いなのか。それとも火星人そっくりの人間なのか。あるいは人間そっくりの火星人なのか？男をモデルにした小説を書けとすすめたり、変転する男の弁舌にふりまわされて、脚本家は次第に自分自身が、何物なのか分からなくなってゆく……。異色のSF長編。

《「紺碧の艦隊」の紹介》

土木工学科2年 大平 育男

僕の薦める本は徳間書店の『紺碧の艦隊』です。すでに読み知っている方もいるでしょうが、改めて紹介します。この作品は太平洋戦争をテーマにした戦記SF小説です。昭和前期の大東亜戦争を戦った大高・山本の陸・海軍の首脳が、「昭和」の時代に転生して、大東亜戦争を公正な正義の為に戦うという話です。

半世紀前の大戦がテーマの小説ですが、決して戦争賛成の小説ではなく、また反戦主義の小説でもありません。むしろ、これは平和への提案を掲げた小説です。戦闘の血沸き肉躍る描写よりも、むしろこの小説の見所は登場人物達の語る「世界戦略」や「地政学」にあると思います。

例を挙げれば、太平洋戦争に至る経緯です。歴史の教科書はこれを「軍部の中国侵略によって引き起こされたもの」と書いています。これは誤りです。事実、太平洋戦争開戦への経緯は、全アジアをその勢力かに置くための

大義名分を欲し、またそのアジアで急成長した大日本帝国を叩き潰すための巧妙なアメリカ合衆国の策謀だったのです。

この小説では、こういった日本の教育界やマスコミは知らせないような歴史の真実が書かれています。歴史や政治に興味のある人、それ以外の人にも一読の価値があると思います。

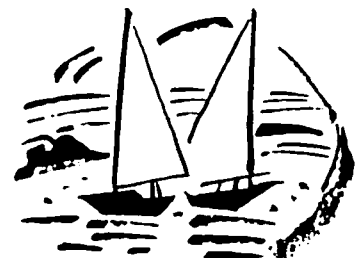
《「シンドラーのリスト」の紹介》

機械工学科3年 松崎 浩範

この本には舞台である第二次世界大戦下のナチスのユダヤ人迫害の様子が鬼気迫るほどなまなましく、リアルに描かれている。しかし、ユダヤ人迫害それ自体は、この作品の主題ではなく、ナチスという強大な組織にうねは従順を装いながらも敢然と挑戦し、個人の手で千二百人を超えるユダヤ人を死の運命から救った男の物語である。

その男、オスカー・シンドラー自身、ほかならぬドイツ人で、実業家として一旗揚げようと、ドイツ軍の侵攻の尻馬に乗った形でポーランドの都市クラクフへやってきて、ナチスとの軍需契約のおかげでぼろ儲けをしている人間であった。ある時、親衛隊のユダヤ人への残虐行為が始まるのを目にして、同胞のそんな行為が許せなくなり、ナチスが儲けさせてくれた莫大な金をユダヤ人救助作戦に惜しげもなく注ぎこみはじめていくという話である。

もし、暇があったら読んでみて下さい。



《「えんぴつを削って」 木根 尚登著》
電気工学科3年 山田 寛章

僕が紹介する本は「えんぴつを削って」です。これは木根尚登氏のエッセイ集です。木根尚登といえば、知る人ぞ知るTMN（TMネットワーク）のメンバーの一人で、いつもサングラスをかけている怪しげな男です。

この本の内容は木根さんのラジオ番組「えんぴつを削って（月曜日【怒れ！ポンチッチ】、火曜日、水曜日の【フリートーク】、木曜日の【ロック曜日の笑い】、心温まる話の金曜日）」をもとに書かれたもので、それぞれの文章から木根さん個人の怒り、笑い、友情などの価値観が表されています。そのほかにも、「サッカーの思い出」、「僕が初めて出会った恋」などの文章も興味深く、「Sへの手紙」はかなり感動しました。また、ところどころにTMNの他のメンバー、コロッケ、B'zの松本孝弘氏達との友情関係が綴られています。

木根さんの他の作品には、「キャロル」、「ユンカース カムヒア」、「月はピアノに誘われて」などがあり、また、TMN活動終了に際してデビュー前夜を綴った「電気じかけの予言者たち」もあります。これらはTMNファン、木根尚登ファンでない人でも楽しめる作品であると思います。

《「イローナの四人の父親」
A・J・クイネル著（新潮文庫）》
工業化学科4年 佐藤 香

米ソの冷戦が完全終結して、ベルリンの壁崩壊、ドイツ統一、世界は確実に平和へと向かっている。しかし、人間は常に今、自身が置かれている状態の反対の状況を望むものなのだ。平和であるからこそ自らが決して危険ではない位置で、戦時の緊迫したスリルを味わう。つまり、小説の仮想世界での体験である。そこでは、冷戦は未終結であり、開戦の

危機にあつたり、戦争中であつたりする。

今までのスパイ小説は007などが主役であつたが、近年の「平和」の影響を受けて、従来のものとはまた違った形のスパイ小説が登場した。それが本書である。舞台は、もちろん冷戦時代でハンガリーを軸に東西の秘密機関、それらの背後に隠れた米ソの駆引きなども含まれている。

このあたりまでは通常のスパイ小説だが、この本の面白いと思うところは、敵対国のはずのスパイも含んだ祖国の違う4人のスパイたちが、イローナという娘の父親であることだ。彼女は父親たちの祖国の情報戦争に巻き込まれたのか、何者かに誘拐されてしまう。娘を取り戻すため、4人の父親たちは協力して救出作戦を開始する。そして、最後まで現れない「敵」。それは意外な人物であつた。祖国の違う4人のスパイの娘。冷戦終結後の平和が生み出した異色のスパイ小説といえる。

《「夜と霧」の紹介》
土木工学科4年 根本 卓也

私が推薦する本はみず書房からでている『夜と霧』である。この本は文学的価値に加え歴史的実感が実体験の元で書かれている。

この本は、独裁と混沌の時代のドイツの強制収容所に入れられ、殺りくの中で飢えや発疹チブスなどの伝染病、そして食事と言えないほどのパン一片だけでの重労働、その中で生き残った数少ない内の一人の医師の実録である。

この本の至高の点は文学的に正確に、かつ自己の中にある悪を表現していて、視覚から感覚へと訴えかけてくる。それは最後にある写真資料によるもので、そこまで説明したものをより鮮明に人間の心に映つしだす。そして極限の状態の中、人間がどのように思考し、地獄よりひどい強制収容所の中で人間がどのようにやすらぎを見つけていくのか、現実にその場にいなければわからない視覚的、聴覚

的、感覚などががひしひしと伝わってくる。

この本をもし書店などで見つけたら、読ま
ずとも、本をめくって最後にある写真資料だ
けを見るだけで強制収容所の悲惨さが痛感で
きるはずだ。そしてこの本を読んだら読む人
が今まで持っていた世界観や人生観が変わる
だろう。

《「聖刻1092シリーズ」

千葉 暁著 (朝日ソノラマ)》

機械工学科5年 箱崎 栄一

ガンダム、ダンバインそしてレイズナー。
少年時代、僕たちはテレビ画面中をところせ
ましと暴れまわるこのアニメロボット達の姿
に胸を躍らせたものだ。なぜ、あんなにも夢
中になれたのか。理由の一つには、強いもの
へのあこがれ、と言うのがあったと思う。

この聖刻1092シリーズは、そんな少年
心を十分に満たしてくれる作品だ。舞台とな
るのは、作者の千葉暁氏いわく、砂塵が吹き
荒ぶ“大陸的な”地《中原》(この表現は
本当にピッタリ) まあチベットの土地、
と言うと分かりやすいだろう。ストーリーは、
主人公の見習い僧侶フェンが、何者かに襲わ
れた幼なじみの少女リムリアを追って故郷を
立つ、と言うものだが、ただ歩いて捜しに行
くわけじゃない。ある乗り物に乗って行くの
だが、その乗り物にこそこの作品独特の世界
観が見られる。それは《操兵》と呼ばれる。
人間の三、四倍の背丈がある巨人兵、いわゆ
るロボットなのだ。

フェンはこの父の形見の操兵ヴァシュマー
ルを操り、旅先で知り合った仲間、占術師の
少女ジュレ、銀の貴公子クリジュナ、武骨な
聖騎士ガルスと共に、謎だった、リムリアが
襲われた理由と、《白き操兵》ヴァシュマー
ルの正体について知ることになる。そして
彼は肉体的にも成長し、強くなっていくのだ
った。(最初から相当強いが) これを読んで
いない人の中には、こういう冒険娯楽的小説

を子供っぽいと嫌う人もいるだろうが、そう
ゆう意見は読んでから言って欲しいね。まず
確実に楽しめるから。そして、心からワクワ
クして欲しい。あのころのように、夢を失わ
ないためにも。

《「アルジャーノンに花束を」

ダニエル・キイス著/小尾芙佐訳》

電気工学科5年 佐藤 隆夫

32才になっても、幼児の知能しかない主
人公チャーリーの人生は、罵詈雑言と嘲笑に
満ちていた。昼間はパン屋でこき使われ、夜
は精薄者センターで勉強の毎日。それでも、
人のいいチャーリーは少しもくじけず、陽気
に生きていた。そんなある日、大学の偉い先
生が頭を良くしてくれるとやってきた。願っ
てもないこの申し出に飛びついたチャーリー
を待っていたのは、連日の過酷な検査だった。

検査の競争相手は、アルジャーノンと呼ば
れる白ネズミだ。脳外科手術で超知能を持つ
ようになったアルジャーノンに、チャーリー
は奇妙な親近感を抱きはじめる。やがて、脳
外科手術を受けたチャーリーに新しい世界が
開かれた。だが、その世界は、何も知らな
かった、以前の状態より決して素晴らしいと
言えなかった。今や超知能を持つ天才に変貌
したチャーリーにも解決しがたい様々な問題
が待ち受けていたのだ。

友情と愛情、悲しみと憎しみ、科学とヒュ
ウマニズム、人生の哀観を繊細な感性で描き
出す感動の長篇。多少長いかも知れないが、
時間と金があるなら買って読んでみては。



図書館利用の手引き

本校の図書館は、開架式の図書館ですので自由に閲覧できます。

まず、一階書庫に入室するときは、受付カウンターに「学生証」を提示してください。

次に、希望の図書を探す方法ですが、それには二通りあります。一つは直接書架を探す方法で、もう一つはパソコンから情報検索して目的の本の所在を確認する方法であります。

パソコンには、通常検索画面（前方一致検索）を出してありますので、下記の要領で入力して下さい。

1. 書名、著者名等のいずれか一つを入力して下さい。

<入力方法は、ローマ字入力及びかな入力
で、漢字に変換する場合には、変換キー（XFER）を押す>

[例] 書名（基礎生物学）をローマ字入力する場合

書名の欄にK I S Oと入力して変換キー（XFER）を押す

SEIBUTUGAKUと入力

して変換キー（XFER）を押す

[例] 著者（磐城恵）をローマ字入力する場合

著者名の欄にI W A K Iと入力して変換キー（XFER）を押す

MEGUMIと入力して変換キー（XFER）を押す

☆著者名の場合、スペースを入れたり入れなかったりがあるので、両方で入力してみてください。

2. 入力後、実行キー（F・10）を押します。<蔵書としてある場合は、該当データは何件ですと出ます。>

3. 表示を見る場合は表示キー（F・6）を押します。

4. 必要な情報が得られなければ、戻すキー（F・1）で、最初の検索画面まで戻して下さい。戻したらクリアーキー（F・3）をおし、次の利用者が検索しやすいようにしておいて下さい。

図書を帯出する場合は、帯出希望図書と学生証をカウンターに提示して下さい。（係員がコンピューター処理を行います。）

帯出限度冊数は一人3冊です。

なお、卒業研究のための特別帯出は5冊まで可能ですが、「卒業研究用図書帯出証」に指導教官の捺印が必要です。

ただし、本に館内のラベルが貼ってあるものは帯出できません。

帯出図書を返却する場合は、受付カウンターに返却希望の図書を提示し、返却処理終了後に、元あった場所に戻して下さい。

また、ビデオコーナーを利用する場合も受付カウンターに申し込み、《ヘッドホン》を受け取ってから図書館備え付けのビデオソフトを視聴して下さい。

☆ビデオソフトの館外貸出はいたしません。

☆個人所有のビデオソフトは館内で視聴できません。

新着図書は、閲覧室入り口右側の書架（新着図書コーナー）に配架してあります。

図書館は皆さんのものです。

マナーを守り、十分にご利用下さい。



図書館だより

☆ クラス別図書帯出冊数 (平成5年4月～6年3月)

平成5年度	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	15	449	757	398	315	1934
電気工学科	39	220	623	687	727	2296
工業工学科	140	508	634	732	134	2148
土木工学科	32	487	263	146	266	1194
計	226	1664	2277	1963	1442	7572

☆ 個人別貸出冊数ベスト10 (平成5年4月～6年3月)

1	加古 晶	(機械3年)	134	7	樋木裕次郎	(電気2年)	73
2	寺岡大二	(土木5年)	101	8	阿部義弘	(機械3年)	71
3	守岡宗典	(機械3年)	90	9	小林裕和	(電気5年)	68
4	小松留美	(土木2年)	84	9	高橋 淳	(電気4年)	68
5	矢吹益久	(機械4年)	78	9	馬上奈緒	(化学3年)	68
6	野澤太美	(化学3年)	77			(学年は平成5年度のもの)	

夏季休業特別貸出について

特別貸出は下記の通り実施致します。

特別貸出開始	・・・	平成6年7月18日(月)
貸出限度冊数	・・・	1人5冊まで
返却期限	・・・	平成6年9月2日(金)

- ◎ 現在帯出している図書で引続き必要な場合は、
カウンターで継続手続きを行うこと。また、1人で
長期間独占しないよう期日には必ず返却してください。

臨時閉館について

下記以外の日は原則として開館しております。
(ただし、土曜日・日曜日は閉館とする。)

7月25日(月)から7月27日まで閉館

8月15日(月)から8月19日まで閉館

開館時間 午前9:00～午後5:00
(ただし、12:00より1時間はお休み)



平成6年度図書委員会

図書館長 渡辺洋太郎 (一般教科)
副館長 (ビブリア担当) 西山 公紀 (一般教科)

委員	佐藤 憲男	(機械工学科)	奈良 和久	(電気工学科)
	高橋 辰男	(工業化学科)	土居 威男	(土木工学科)
	赤松 一良	(庶務課長)	若松 芳男	(図書係長)
	浅川 春美	(管理主任)	大谷 敦子	(司 書)

学生委員

5 M	稲川 哲夫	5 E	佐藤 貴弘	* 5 C	柴田 公彦	5 土	赤津 洋子
					大内 宏美		
4 M	鈴木 和夫	4 E	鈴木 貴弘	4 C	佐藤 香	* 4 土	加藤 好教
3 M	森 俊介	3 E	山田 寛章	* 3 C	酒井 友子	3 土	松園 千加子
	松崎 俊介		村上 俊幸		吉田 寿江		荒 さより
2 M	高木 一幸	2 E	大高 裕幸	* 2 C	高木 厚志	2 土	渋谷 健二
	蛭田 貴弘		植 英規		加藤 誠一		氣仙 淳
1 M	斎藤 雄一	1 E	渡辺 剛史	1 C	遠藤有希子	1 土	小松 律子
	佐藤 利幸		江尻 育美		岡田 裕美		豊田 千衣
1 コ	薄井亜希子						
	*菅 香奈子						

(*印はビブリア編集委員)

編集後記

☆ いよいよ夏休みですね。ふだん勉強やクラブ活動で十分に読書の時間が取れない貴方にとってチャンス到来。好きな本を好きな時間にたっぷり読んで見ませんか。暑いのが苦手と言う人には冷房の効いた図書館がおすすめです。

☆購入希望の図書がありましたら、最寄りの図書委員を通じてか、あるいは直接図書係に申し込んで下さい。